

2019年4月1日

2019年度 新入社員入社式式辞
(スピーチ用原稿)

「書に学び人に学び己の失敗に学ぶ、仕事を通して成長せよ」

— 自ら考え調べ、専門家に乞い、問題解決に繰り返し努力する —

(株) アイヴィス

代表取締役 石和田 雄二

－ 目 次 －

1. はじめに

{芽吹き始めた春の草花が皆さんの門出を祝福している}

新卒の皆さん、入社おめでとうございます。

2. 今日、新年号の発表があり、愈々、新たな成長の時代が始まる。

{平成の時代は、日本が知価サービス社会への適応に苦しんだ時代}

GDP600兆円を維持すれば、若者にも豊かな社会が現出する。

3. 新しい時代は、所有から利用、技術からサービスの時代へ

{技術革新は続き、その成果の上にビジネスモデルが大きく変わる}

ITサービスの役割変化で、ビジネスの利用化、サービス化が進む

4. ITサービスも変革の渦中にあり、内容と共に業界構造が変る

{クラウドが浸透、大手元請の役割が変り、IT企業の淘汰選別進む}

旧企業の淘汰と共に新たなスタートアップが業界前面に躍り出る

5. 次世代ITサービス産業での企業成長条件と当社の位置づけ

{先端技術と企業システムの統合化には、新旧IT技術の連携が必須}

時代環境の中で当社の成長可能性は高く、総合力で差別化を推進

6. 平成と共に成長して来た当社、新時代に新たな成長目指す。

{成長基盤整備 3 年計画実施中、整備後 3 年 5 年先の飛躍を目指す}

SI サービス力と先端技術、そして優良顧客、未来へ挑戦したい

7. 2025 年に IT サービスの第一線へ、飛躍を支える主役は皆さん

{仕事が人を成長させる。先端でも SI 開発でも仕事の場で成長せよ}

人は仕事で育つ。成長する仕事を選べる当社は若手の活躍に最適

8. 終りに

{書に学び人に学び己の失敗に学ぶ、仕事を通じて成長}

可能性を信じ、目標をもって地道な努力を積み重ねること。

<番外編 人に学ぶ、言葉に学ぶ>

◇ 抜群の先見性で、昭和、平成を駆け抜けた人 堺屋太一氏

小説「豊臣秀長」から

◇ 今を時めく深層学習の研究者、指導者伝道者 松尾 豊氏

朝日新聞 就活広告欄「仕事力」から

1. はじめに

{芽吹き始めた樹々の新緑が皆さんの門出を祝福している}

○ 新卒の皆さん、入社おめでとうございます。

今年の冬は、北日本を中心に厳しい寒さでしたが、

東京は、偏西風の南下が止まり雪もなく比較的穏やかな気象でした。

緑の柳、コブシにレンギョウ、トサミズキと春の花も一杯、

4月1日、多くの人々の新しい門出を祝う様に、東京の桜は満開です。

今年の新入社員は59名、第二新卒が2名、61名が入社します。

その他、物理学会で若手奨励賞を受けた京大の菊池先生始め、

5名の技術系中途入社研究員、社員も会社に入ってきます。

○ ITサービス産業は、若く優秀な人材が成長の条件です。

産業自身が新たな成長期に入るサービス変革期には、特にそうです。

皆さんには5年後、各自の職場でリーダーとして活躍して貰います。

会社は、皆さんの活躍の場を創りますが、

皆さん自身が目標を持って努力、大きく成長することが必要です。

以下、業界の現況、当社の将来や新人への期待など、簡単に説明する。

2. 今日、新年号の発表があり、愈々、新たな成長の時代が始まる。

{平成の時代は、日本が知価サービス社会への適応に苦しんだ時代}

○ 平成は平和な時代ではあったが、経済的には停滞後退した時代

バブルの絶頂期から、その崩壊、金融不況、世界同時不況を経てリーマン危機、阪神淡路大震災や東日本大震災、大変な時代でした。

又、新興国が成長する中、世界第2の経済大国も凋落低迷を続けた。

しかし、見方を変えれば、平成は経済のグローバル化と少子高齢化が進む中、製造大国から豊かな社会を目指す知価サービス社会への質的な転換期、新時代への適応、着地が進んだ時でもあった。

○ 5月で新しい時代に入るが、豊かな日本への再スタートの時だ

戦後の高度成長が終わり、豊かな社会の下、女性の社会参加が進むと共に出生率が低下、少子高齢化に向うのは世界の一般的傾向だ。

経済のグローバル化が進む中で海外との競争が激化、産業構造が変化して従来の主要産業が衰退し、新たな産業に重心が移るのも

必然的な流れ、重要なのは問題を極小化して安定着地することだ。

そうした視点から平成は経済的にも重要な役割を果たしたと思う。

○ 時代をリセット、新時代の日本に相応しい新たな成長が始まる

GDP550兆円を維持出来れば、若者にも豊かな社会が現出する。

3. 新しい時代は、所有から利用、技術からサービスの時代へ

{技術革新は続き、その結果であるが、ビジネスモデルが変わる}

○ デジタル化の進展でリアルビジネスの在り方が大きく変化する

当社の主要サービス分野である自動車産業と通信サービス産業がデジタル化の進展で、既存のビジネスモデルが変わって行く。

☆ 世界一の自動車企業がモビリティ・サービスの会社を目指す

自動車業界は、20 年台前半にレベル4 の自動走行車を出荷する為に世界中で各社が熾烈な技術開発競争を戦っているが、一方で、海外と共に国内も車の所有からライドシェアなど利用化が進み、地域的移動の利便性や最適化を追求するMaaS、モビリティ・サービスの社会基盤が必要になるとして、個別企業や業界の垣根を超え、異業種企業なども参加してインフラ作りを始めている。

☆ グーグルがゲームソフト配信、アップルが映像配信に参入する

通信も 5G やその先のポスト 5G への技術開発競争が活発だが、一方で通信スピードが 4 G の 100 倍 1000 倍になるとビジネスもスマホ端末や通話機能から魅力あるコンテンツ開発競争に移る。

○ 技術はプラットフォーム化され、競争の軸は利用とサービスへ

ビジネスの役割変化で IT サービスも利用化、サービス化が進む

4. ITサービスも変革の渦中にあり、内容と共に業界構造が変る

{クラウドが浸透、大手元請の役割が変り、IT企業の淘汰選別進む}

○ 従来型 SI ビジネスが減少、谷間の専門家の業務が IT 化対象に

クラウド進展で大手ベンダーの得意な基盤系 IT 機器販売が激減、

IT 投資も従来型 SI から AI や IOT の技術革新系に移り、大手 IT

ベンダーの役割が減少、IT サービスが顧客主導型に移っている。

システム化の主流も、従来型のビジネスプロセスの省力化、効率化

でなく、ビジネスプロセスそのものの見直しやシステム化の谷間で

専門家が担当していた分析や推論、判断や診断分野に移っている。

将来的にはオンプレ基盤をベースにしたシステム構築も必要だが、

プラットフォームの提供するサービス環境やパッケージを使う

利用型が普及、自社の業務革新に繋がる IT 投資が最優先される。

○ 大手 IT ベンダー離れが進行、顧客自身が自社 IT 化を主導する。

基盤込みの SI が減り、短期実現を優先するので開発規模は縮小化、

大手 IT ベンダーにも専門性が要求され、作業範囲も限定化される。

この結果、従来 of 大手 IT 企業の下での下請け構造は崩壊に向い、

専門性と主体性に基づく水平分業的な協業形態へと変わって行く。

旧ソフト企業の淘汰が進みスタートアップが業界前面に躍り出る。

5. 次世代ITサービス産業での企業成長条件と当社の位置づけ

{先端技術導入と企業独自の統合化には、新旧IT技術連携必須}

○ 熱流体解析やWebとクエリー構築をAIが出来る訳ではない。

顧客独自の自社データ分析や専門家並みの深い経験に基づき複数構造荷重モデルから代表モデルを選別するのはAIが得意だが、周辺環境の整備や実際の解析にはシステム開発力が絶対必要だ。顧客企業が新たな先端技術を導入して、従来の企業独自の業務用システムと連携する為には、先端技術のAPI化や専門的IT支援が重要であり、これがなければ先端技術導入も価値を生まない。

☆ 技術特化したスタートアップは専門家集団、実装能力に欠ける

急速に立ち上った専門家集団には、旧来型のITサービス人材を抱える余裕もなく、技術文化からも社内的に抱えるのは困難だ。

☆ SIビジネス大手ITのBP企業は、先端技術導入の余裕なし。

先端技術は先行投資が必要、一朝一夕に育たないし定着も困難。

☆ 顧客主導の先端開発には大手ITベンダーは価格が高すぎる。

先端技術を持つ大手企業は従来以上にサービス価格が高止まる。

○ 当社は先端技術者50、IT技術者400名の新旧技術対応の中堅

時代環境の中で当社の成長可能性大きく、総合力で差別化する。

6. 平成と共に成長して来た当社、新時代に再度の成長目指す。

{成長基盤整備 3 年計画実施中、整備後 3 年 5 年先の飛躍を目指す}

○ 経済的困難な平成に無から社員 500 名へ成長、31 期連続黒字

経済的困難とは別に平成は IT サービス成長期、この流れに乗れた。

95 年の Windows、98 年インターネット、その後のクラウドと Web

○ 30 年の地道な努力と実績信用、創業時の先端技術が巡って来た

創業当初から画像処理と認知認識の専門企業を目指してはいた。

独立企業には高い目標と共に自立と自律が何よりも大切な生命線、

専門企業を目指しつつ初期は製造系の実業 CAD/CAM に集中した。

規模拡大につれて、製造、流通、金融、公共や研究開発に進出、

結果的にバランスよく成長し、安定した IT サービス企業になった。

社名 Intelligent Vision Image Systems、再び先端技術が巡って来た。

画像処理、認知認識が AI に、防衛省日米共同研究が今の SLAM に、

SLAM と牽引車物流が今の自動走行や JAXA の研究に繋がった。

○ SI サービス力と先端技術、そして優良顧客、未来へ挑戦したい

顧客もトヨタ、IHI、NTT データに防衛省や国立情報研、大手 IT。

社員 500 名、平均年齢 33 歳の若さ、31 期連続黒字の経営と信用、

成長基盤整備計画で基礎固め、2025 年を目指して着実に成長する。

7. 2025年にITサービスの第一線へ、飛躍を支える主役は皆さん

{仕事が人を成長させる。先端でもSI開発でも仕事の場で成長せよ}

○ 成長基盤整備最終の20年度末、技術者超500名と最新技術基盤

東京、名古屋、大阪の3大都市圏で地元密着型の拠点を立上げる。

各拠点に地元大学や企業と連携した先端技術の研究部署を設置、

全体として100名規模の研究開発組織の応用技術開発本部を創る。

○ 研究開発と現場ITサービスとの部門連携を当社の強みとする。

両部門が一体となり、顧客の新たな先端技術システムを共同開発

- ・ アマゾンゴースト対抗、流通分野の無人小売店舗の支援システム
- ・ ブロックチェーンを用いたエネルギー相互取引管理システム
- ・ 働き方改革を支援するRPAとAIを連携した高生産性ツール
- ・ キャリアのモバイルデータを活用したAI分析手法の確立
- ・ IOTによる工場の半自動化を推進する工程管理システム
- ・ 無人走行車を用いたモビリティシステム+アプリ、などなど

○ 新人の皆さんが、中堅として5年後の当社の成長を牽引する。

6年後の2025年は大阪万博、当社大阪支社は社員300名体制

東京400、名古屋200、大阪300、研究開発100名の1000名体制

人は仕事で育つ。成長する仕事を選べる当社は若手の活躍に最適

8. 終りに

{書に学び人に学び己の失敗に学ぶ、仕事を通じて成長。}

<昨年入社式でも話した当社新入社員への私からのメッセージ>

○ 可能性を信じ、目標をもって地道な努力を積み重ねること。

☆ 今日から社会人。

社会人には教養と常識も必要、読書で人間性と世界を広げる。

仕事を通じて学ぶ基本の軸をずらさず、仕事を冷静に見直す。

☆ 基本の軸は5年後の自分の姿、目標をしっかり持つこと。

3年後に1つのゴールを設定、節目、節目で振り返ること。

問題あっても1年間は目標変えず、目標への己の姿勢を正す。

☆ 将来から今を考え、自分の不足を他者から学ぶ習慣をつける。

自分を客観的に見る目を養う訓練をする。

本を読んで考えるのが一番。

☆ 可能性を信じ、目標をもって地道な努力を積み重ねること。

書に学び、人に学び、己の失敗に学ぶ、

仕事を通じての人間的な成長。

☆ 1年後の皆さんの成長を期待する。

目標をもって、地道な努力を続けてください。

<< 番外編 人に学ぶ、言葉に学ぶ >>

◇ 抜群の先見性で、昭和と平成を駆け抜けた人 堺屋太一氏

小説「豊臣秀長」から

『人間、どの道を選ぶにしろ大いなる成功を収めるには、
運が良くなければならないが、
幸運を得るためには努力と実力と忍耐が不可欠だ。
成功者の幸運は、運を逃がさぬ絶え間ない努力と
運に乗って飛躍できるだけの実力と
運が来るまでの苦難に耐える忍耐の成果なのだ。
戦国時代の英傑たちの生涯を見る時、
つくづく思うのはこのことである。
この時代に名を成し、家を興した人々は皆、凄まじいほどの努力
と優れた実力と驚くほどの忍耐を経ている。
乱世に天下統一の先鞭をつけた偉才、織田信長も又、
この例外ではない。』

◇ 今を時めく深層学習の研究者、指導者伝道者 松尾 豊氏

朝日新聞 就活広告欄「仕事力」から

『インターネットにしても AI にしても、現在は、今後 10 年、
20 年かけて社会全体が変わってゆく最初の時期だと思います。
この未来を仕事として担う若い人たちには、どんな進み方を
目指したらよいのでしょうか。』

僕は、まず、世界に目を向ける習慣を挙げたい。

世界全体から見た自分たちのポジションを客観的に捉える為に、
海外のいろいろな人と話したり、本を読むなどの努力をすること。

更に、自分の力をメタ（高次）に認識して、

その力が生きる場所を選ぶことを薦めたい。』

『AI はやがて、電気のように

社会の基盤として人の暮らしに溶け込んできます。

AI は道具として強力です。だからこそ、それをつかいこなすと

同時に、どう使うかを考えるのはとても大切です。

「これって何のためにやっているのか」と自分のやっている
仕事を掘って、掘って、考えていってください。』

<おわり>